

1. 短期展望

(p. 1)

- ①[世界の市場は落ち着いて来た]
- ②[アメリカ経済は堅調]
- ③[福井日銀総裁の窮地とゴールドマン]
- ④[テポドン、Gold、自民党総裁選他]

2. 展望①：石油高価格体制の誕生か？

(p. 4)

現在の国際情勢を広く展望すると、そこに「石油高価格体制」(Oil-High-Price Regime オイル・ハイ・プライス・レジーム)とでも呼ぶべき一つの体制が姿を表して来ているようである。石油の高価格が、産油国には勿論、石油消費国にも利益をもたらし、アメリカにも反米諸国家にもプラスに作用している。そのような情勢が生まれている。そうである以上、この情勢がある程度の長期間維持されると考える事が出来る。

3. 展望②：東アジア情勢

(p. 9)

① [皇太子ご一家オランダ訪問]

6月12日～13日に举行されたタイ・プミポン国王在位60周年記念式典に参加された天皇皇后両陛下は、現地に集ったヨーロッパ王族、富豪と長期的な世界のあり方について懇談された。皇太子ご一家のオランダ訪問もその中で協議されたものと推測される。

② [北朝鮮のテポドン発射問題]

テポドン発射問題の背後にはアメリカのミサイル防衛システムをめぐる思惑が絡んでいる。6月23日、日本政府はアメリカに対するミサイル武器・技術供与に関する交換公文を締結した。

4. 展望③：日本の対中央アジア

戦略検証（上）

(p. 12)

04年8月、我が国は、中央アジア地域により積極的に関与すべく、「中央アジア+日本」という新たな枠組みを立ち上げた。そして今年6月5日、東京において「中央アジア+日本」対話の第2回外相会合が開催された。我が国は、何を目指し、どのような方策で、中央アジア地域に関与しようとしているのか？一連の会合を通じて示された日本の対中央アジア戦略のあり方を検証する。